

2012年9月3日・京都新聞「詩歌の本棚」欄では

## 越前の海の潮騒に触発されながら過去の時間を辿り直す

浜本はつえ『斜面に咲く花』

浜本はつえ『斜面に咲く花』（コールサック社）は福井に住まう著者が、越前の海の潮騒に触発されながら過去の時間を辿り直す。経時的な詩行の運びは、しかし郷愁をまとう回想ではない。流されても自分を見失わないための目標物の浮きを確かめるよう」に、過去は一つ一つ静かに昇華されていき、未来に向かう意志のよ

うに硬い煌めきを放っている。  
「無数の漁り火が／まき散らした宝石さながら／日本海に／銀座の夜のように浮き上がり／華やかに光り輝く  
／／越前沖に集結した船団は今／一年振りに水平線上に／午前零時の蟹漁解禁明けに備え／出揃う時がやってきたのだ」（「出漁のとき」）

河津聖恵・著

と紹介されています。